

# 自己啓発による勉強法

自分の時間をバクチャや女（または男）に遣い果たしている人、乙に構えた低趣味の人は出世しない。出世の階段を昇る向上心がないからである。向上心があっても伸びない人、出世できない人もいる。仕事以外の勉強、自己啓発の勉強の仕方が間違っている。ムダが多過ぎるためである。

経営管理講座 402 染谷和巳

## 酒女金で失敗する社員の中に

会社人間は誰でも会社のナンバー2になる資格を備えていると言ったが、素質、能力、仕事の実績がありながら、登りきれずに終わる人が多い。落下して会社から消えていく人もいる。失敗の原因は金、女、酒である。新人や下の人は関係ない。これで失敗するのは幹部である。社長が買っていた部長課長の管理職である。

事務のかわいい女の子に手を出した。女の子も舞い上がり、社長の権威を笠に威張り始めた。気に入らない仲間の配置換えを社長に頼んだ。二人の言動は皆を不愉快にした。ベテラン女性社員が創業者の会長に訴えた。会長は事実関係を調べ、社長を地方の営業所長に降格した。社長就任後ちようど一年であった。

会社の金を数千万円遣い込んでいた。商品を横流ししていた。これを知らなかった社長は愕然として「まさか、あいつが」と絶句する。人を見る目が無い自分にいや気がさす。信じて疑わない「甘い自分」がいやになる。この事件で倒産することもあるが、損失が軽ければ、こうした犯罪を防ぐ改善をして立ち直ることができる。お金の犯罪は白黒がはっきりして処理解決が早く後遺症も残りにくい。

社長は耐え切れず退職、女の子も辞めた。社長は退職の本当の理由を家族に言えなかった。妻も「ひどい会社だ」と恨んだ。荒田が会長ならやはり同様に社長を左遷したであろう。しかし自主退職はさせなかった。この屈辱に耐えて再び上昇してきたなら、人間としての器が大きくなり、本物の経営者になる。貧しい島から出てきて苦労してきたと離反したくはない。「辞める」と言ったら「降格の本当の理由を

には政治家、軍人だけでなく国民が国のために力を尽した。親は懸命に働いて子を養育した。親は自分を起点に親、祖父母、曾祖父とたどっていけば、今自分がいることに感謝する気持ちが強くなる。肉親のまわりの出来事や社会を知れば日本の歴史が解る。庶民一人ひとりが立派な国民であり、優れた日本人であることが解る。歴史を知らない人、学ばない人は忠誠心を育てられない。祖先に対する敬意と国に対する誇りは歴史によって培われるからである。自己啓発の柱は読書である。ただ読むだけでは効果はない。人と効果的の自己啓発の三条件

前に勤めていた会社で社長が外国人の女を困らせていて、偶然二人の濃厚な場面を見てしまったが、奥さんにも誰にも漏らさなかった。ある会社の「新社長就任」の挨拶状に驚いたことがある。一五〇人の社員がいる会社の社長は務まらないと思う人の名前があった。新社長は会社がまだ小さかった頃、十八歳で入社、汗を流しほこりにまみれて働き、社長にかしずき、三十年間貢献してきた男である。決め手は創業社長と同じ小島の出身だという点ではないかと荒田は思った。

品方正、どこをついても一切汚点がなく、恥じることは一度もしたことがない、こうした口ポットか石のような人を立派な人だという「人間観」を荒田は持っている。こうした人は実は小さい人であり、犯罪者は除外して、様々な失敗をして恥をかいて這い上がった人の中にナンバー2になる大きい人がいると荒田は思っている。

二、強制を受け入れ、自らに読書量や時間の制約を課す。これをしないと中途で挫折する。三、評価を受けテストで到達度を測る。これがないと勉強意欲が高まらない。たとえば最近の経営者養成研修では歴史を学ぶなら渡部昇一の「日本史から見た日本人」を先に読みなさい。そうすれば吉村昭の「零式戦闘機」、司馬遼太郎の「坂の上の雲」山本七平の「私の中の日本軍」を楽に深く理解できると指導している（32期岡島研修生の体験発表に基づく）。これが一条の目標を決めて、そこへ至る道を選ぶ、である。

お互いに「好意を持つ」段階で納まっていることは稀れで、会社

ナンバ12の第一条件は「忠誠心」であった。会社人間に忠誠心が全くない人はいない。しかし功利と打算（目の先の損得）の上にまとった薄っぺらなもの、つけ焼刃のすぐはがれてしまう偽物の場合が多い。本物の忠誠心を持つ人はどんな人か。自分の親や祖父祖母、それ

二、強制を受け入れ、自らに読書量や時間の制約を課す。これをしないと中途で挫折する。三、評価を受けテストで到達度を測る。これがないと勉強意欲が高まらない。たとえば最近の経営者養成研修では歴史を学ぶなら渡部昇一の「日本史から見た日本人」を先に読みなさい。そうすれば吉村昭の「零式戦闘機」、司馬遼太郎の「坂の上の雲」山本七平の「私の中の日本軍」を楽に深く理解できると指導している（32期岡島研修生の体験発表に基づく）。これが一条の目標を決めて、そこへ至る道を選ぶ、である。

お互いに「好意を持つ」段階で納まっていることは稀れで、会社

ナンバ12の第一条件は「忠誠心」であった。会社人間に忠誠心が全くない人はいない。しかし功利と打算（目の先の損得）の上にまとった薄っぺらなもの、つけ焼刃のすぐはがれてしまう偽物の場合が多い。本物の忠誠心を持つ人はどんな人か。自分の親や祖父祖母、それ

二、強制を受け入れ、自らに読書量や時間の制約を課す。これをしないと中途で挫折する。三、評価を受けテストで到達度を測る。これがないと勉強意欲が高まらない。たとえば最近の経営者養成研修では歴史を学ぶなら渡部昇一の「日本史から見た日本人」を先に読みなさい。そうすれば吉村昭の「零式戦闘機」、司馬遼太郎の「坂の上の雲」山本七平の「私の中の日本軍」を楽に深く理解できると指導している（32期岡島研修生の体験発表に基づく）。これが一条の目標を決めて、そこへ至る道を選ぶ、である。